

木育環境キャンプ

平成 29 年 12 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日)

【趣 旨】 森林での体験活動を通して、持続可能な社会の構築に果たす森林の役割を理解し、環境保全に寄与する態度を養う。

【参加者】 小学 4, 5 年生 47 名 (山口市 22 名, 防府市 11 名, 周南市 10 名, 萩市 4 名, 申込時 51 名)

【プログラムの内容】

1日目	10:30	はじめの会	2日目	9:00	「森の保全活動を体験しよう」
	10:50	参加者交流タイム		13:00	「間伐材を活用しよう」
	13:00	「森を感じながら遊ぼう」		15:00	おわりの会
	18:30	「森について学ぼう」		15:30	解散

参加者交流タイム

「以前に参加したキャンプが楽しかったから」「森のことを知りたい」と意欲満々の子供たちが集まりました。最初のゲームで交流すると、すぐに仲良くなることができました。



「森を感じながら遊ぼう」

山道を散策しながら針葉樹や広葉樹、落葉樹や常緑樹など、木にはいろいろな種類があることを教えてもらいました。また、間伐した林の様子も観察しました。



その後、自然の中から日本独自の色を見つけるゲームをしました。「黄蘗色(きはだいろ)」「木賊色(とくさいろ)」「利休白茶」「韓紅花(からくれない)」という漢字だけを頼りに探しました。どのグループも近い色を見つけることができました。

その後、木の枝や葉っぱ、松ぼっくりなどを使って飾り炭を作りました。炭が簡単に作れることにみんな驚いていました。栗のいがでできた炭がとてもきれいでした。キャンプ後、壊さないように大切に持って帰りました。



「森について学ぼう」



炭の歴史や森の役割について教えてもらいました。その後、県別森林面積割合トップ10や針葉樹当てのクイズをしました。どちらもかなり難しく、グループで相談しながら答えていました。正解した時にはグループみんなで喜び合いました。

【参加者の声】 森は川や海を守っていることがわかった。木は切らないといけないものもあるのだとわかった。木の成長にはとても時間がかかるということがわかった。森の役割を知って、森を大切にしようと思った。

【成果】 森林への関心が高まり、その役割についての理解も深まった。直接林業に携わっている人から林業の大変さや必要性などについても学ぶことができ、体験的な学びになった。

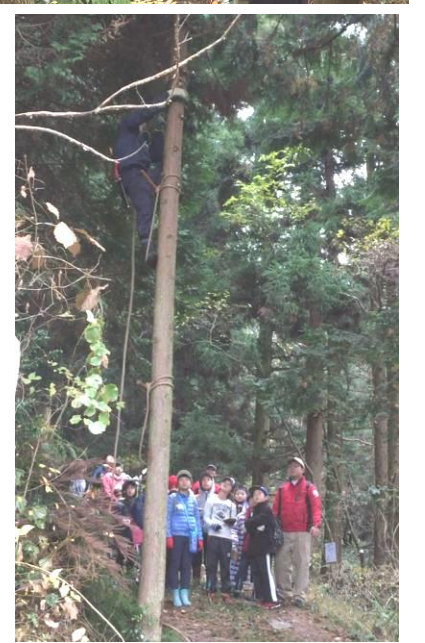
【課題】 間伐についてだけでなく、植林作業についても知ってほしいと思うが、長い期間がかかることなので難しい。

「森の保全活動を体験しよう」

山口中央森林組合の組合長に来ていただき、間伐の意味を教してもらったり、木を伐(き)る様子や枝打ちの様子を見せてもらったりしました。



あっという間に木に登っていく姿はまさに「職人」という感じでした。伐り倒した木は自分たちで短く切り、運び出しました。



チェーンソー体験もさせてもらいました。



「間伐材を活用しよう」



自分たちで伐り出した丸太を自然の家まで持ち帰り、さらにのこぎりで切り分け、お土産を作りました。紙やすりでつるつるにしたり、絵を描いたり、穴を空けたりして思い思いの作品を作り上げることができました。

おわりの会

今回のキャンプで学んだことをまとめ、グループ代表がみんなの前で発表しました。森の役割を体験から感じ取り、森を大切にしようと思うようになりました。

